

あ と が き

ゆとり教育や学力低下の問題が社会問題化する中で、激しい勢いで教育改革が進められてきました。学習指導要領の改訂、実施を間近に控え、学校教育の現場を付託されている教職員にとって大切なことは、教育改革の大きな揺れやぶれに戸惑うことなく、確かな理念に基づいて教育活動を展開していくことであると考えます。

その中であって、附属学校の教職員は、公立学校のニーズをしっかりとつかみ、教育界の動向を見定めるとともに、教育における不易を押さえて研究に反映させるという考え方や姿勢、バランス感覚を一層磨いていかなければなりません。その上で、大学の附属学校として公立学校の教育実践に生きて働く研究を推進し、その内容や成果をわかりやすく提案していくことが重要です。

こうした思いをもち、平成16年度からの幼小中連携研究「創造的な知性を培う」を総括し、本年度、「創造的な知性を培う」第2次研究 第1年次研究を開始しました。課題を「子どもの確かな学力を保証し、人間形成に寄与するカリキュラム編成の視点の明確化」と「生きて働く力としての新たな概念・認識・価値観を創りあげていくための知識・技能等の更新・再構成の学習過程への位置づけ」とし、「各教科等がその責任を明確にすること」を通して解決に向かうこととしました。そして、各教科等で次の4点について授業の中で現れた子どもの事実を通して検証し、具体化することによって責任を明確にしていこうと計画し、研究を進めてまいりました。

- 求める子どもを描き、それを具現するための資質能力を設定する。
- 生きて働く力としての新たな概念、認識、価値観を形成するカリキュラム改善の視点を各教科等の研究計画で示す。
- 知識・技能等の活用を通して更新・再構成に向かう契機、働きかけを明らかにする。
- 知識・技能等の更新・再構成を位置づけた学習過程を具体化する。

これまでの取組について、研究協議会における全体発表や各教科等の授業、研究紀要や要項を通して報告いたします。皆様には、公立学校の教育実践に生きて働く研究となっているか、研究の内容や成果がわかりやすく提案されているかといった点からご確認いただきたいと思っております。また、一目で主張が伝わる、わかりやすく新しい授業、魅力ある新鮮な教材や単元構成、そして本時の学習活動、わかりやすく納得できる研究計画や教科等の新しい学びも大事にしてきました。合わせてご確認いただき、忌憚のないご意見、ご批正を賜りますようお願い申し上げます。

多くの方々からいただいたご指導を踏まえ、第2次研究 第1年次を評価するとともに、「創造的な知性を培う」第2次研究の方向を見定め、その骨格をより強固なものにしていきたいと思っております。

最後になりましたが、新潟県教育委員会中越教育事務所指導主事の先生方をはじめ、多くの皆様にご指導、ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校 副校長

新 保 哲 衛